(1四) 十次 1 次 1 次 1 次 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1														
事務事業	■サービス部門 													
No./名 称	□支 援 部	門	, <u>// Mæ</u> E	17.										
主管課	保育課			関連課に	どもみらい記	果								
分野名	健康福祉													
目標	地域の子育	て支援を	行う 。											
(目標値)	待機児童0人													
人口等の	データ区分 24年度 23年度 22年度 備 考													
データ	人口		77,224人		7,204人			177,161人		・各年4月1日(住民基本台帳)				
	世帯数	79	9,669世帯	79,	79,217世帯			78,812世帯			一・対象者数=各年4月1日現在 一植木分園入所児童数			
	事業の対象者数		41人		43人			42人			ベルル主ダ	^		
運営資源	決算値(千円)		9,468	1	12,809			16,108						
状 況	(国・県)													
	(負担金等)		0.400	<u> </u>							_			
	(一般財源)		9,468		12,809			16,108						
	人員配置数		0.5人		0.5人 4,357			0.5人 4,345						
	人件費(千円)		4,062											
	協働のパートナー													
事務事業	総事業費(千円)		13.530	-	17,166			20.453						
運営経費	市民1人当		•	+	97 399,209			115						
Æ LINE	りの経費(円)		76											
	対象者1人		330.000	2				486,976						
	当りの経費(円)		330,000	3										
ベンチマーク	団体名⇒													
(県内外自治体														
や民間団体と の比較値)														
の比較値)														
指 標		評価	年度	21年度	22年度	Ę		23年度	24호	24年度 最終		度(27年度)		
分園入所児童数(各年度4月1日 現在)		0	目標値	36人	36人			36人	36	人				
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退)	実績値	40人	42人			43人	41	人				
評価のポイント														

	川川のハーン				
	評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。		事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
		③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した 場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

十事業に自めれるが事業の計画(III.333 3 514 - 4 15	22.00.22.07									
小事業名	H24決算値	評価	適切=〇、	要改善=△(評値	面の視点を参照)	⇒	方向性		€•拡大 B:∃ 6縮小 E:廃		∷改善・見直し
	9,468千円	①効率性	〇 ②妥当性	○ ③有効性	〇 ④公平性 〇) ⇒	□A	■B	□C	□D	□E
分園運営事業	事業の概要	玉縄地域の)待機児童解決	肖対策の暫定的	は措置として、私	ム立保育	育所の分 園]形式に。	よる保育園	こかかる経	費を執行する。
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□C	□D	□E
	事業の概要										
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□С	□D	□E
	事業の概要										
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□C	□D	□E
	事業の概要										
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□C	□D	□E
	事業の概要										

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	待機児童解消を目指し定員増を図っているが、待機児童の解消には至っていない。更なる工夫、取り組みが必要である。									
課題解決のための取組	岩瀬保育圏植木分園は平成19年2月開所のため、18年度入所児童数実績はわずか5人であるが、19年度末では32人、20年度末では41人、21年度末では42人、22年度末では43人、23年度末では48人となっており、待機児童対策の一助となっている。なお、事業の対象者数については、これまで各年3月1日現在でとらえていたが、平成24年度から4月1日現在でとらえるべく見直しを行っている。	取組の結果	□解 決 ■未解決							
	待機児童の解消。 今後の方針で示している、平成25年4月以降の当該分園に入園している児童の転園先の確保が必要である。									

中事業の評価と今後の方向性

適切=○ 要改善=△ (評価の視, を参照)		①効率性	0		A:充実·拡大 B:現状継続C:改善·見直UD:統合縮小 E:廃止					
	(評価の視点	②妥当性	0	今後の	当該分園に対して土地建物賃借等公的支援をすることで、 経営の安定化、健全化を図ることができている。なお、当 該土地の賃貸借期間は、実施計画事業との絡みから、期 間延長について貸主と調整を行い、平成25年3月まで延 長した。25年4月以降の利用についても調整中であること	1	課長等名			
		3有効性	0	方向性		D	保育課長			
	7	④公平性	0		から、転園先について、長期的な展望に立って、フラワー センター用地の活用も捉えながら検討に入っていきたい。	Ь	進藤 勝			

(2面) 個別事業の評価 (単位:千円)

(2面) 個別事	**·					(単位:十円) 評価→適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)					
小事業名		ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=	=〇、要改善=	△(1面の評価 <i>0</i> 	D視点を参照)		
, , , , , ,		, , , , , , , , , ,		- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性		
		1323	土地賃借料	1,928	1,908	0	0	0	0		
		1323	園舎リース料	7,560	7,560	0	0	0	0		
	主										
\\ \B\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	主な個別事業										
分園運営事業	別事										
	業										
	主										
	は個										
	主な個別事業										
	業										
	主な										
	主な個別事業										
	事										
	美										
	+										
	エなに										
	主な個別事業										
	事業										
	主										
	主な個別事業										
	別事										
	業										